

郷

土

の

誇

先人を忘れない
ふる里を忘れない
将来に思いを託す

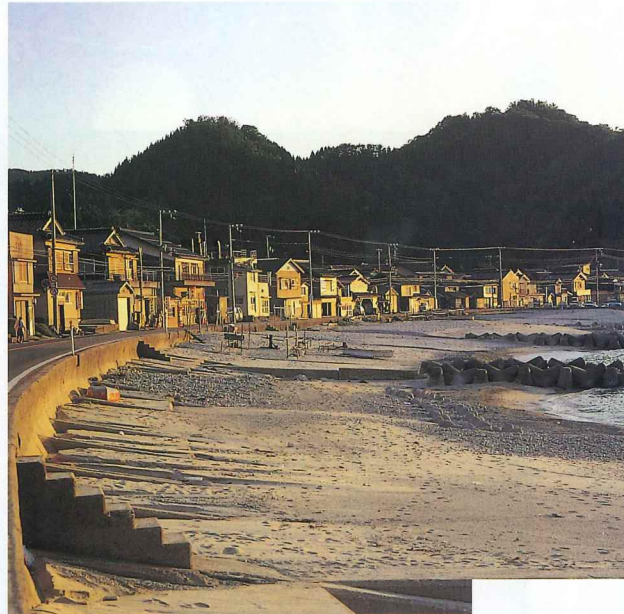
り

薄幸の歌人を世に出す
郷土とともに生きる

前田純孝という歌人を知っていますか？浜坂町が生んだ偉大な明治の歌人。与謝野鉄幹が創刊した雑誌「明星」に入会し、花を咲かせていきます。同じ頃、「明星」の紙面を飾った人々をあげてみましょう。与謝野鉄幹、与謝野晶子、島崎藤村、正岡子規、佐佐木信綱、窪田空穂、川上眉山など、有名人がずらり。与謝野晶子の歌に純孝が作曲した「楽譜とき紅」が載ったり、鉄幹との合作の長詩「小猫」が発表されたり、長文「をしへご」が数ページに



前田純孝 まえだすみかた（歌人）
明治13年、浜坂町諸寄に生まれる。号は歌深。与謝野寛らと「明星」に精力的に作品を発表し、生涯2000首にもおよび短歌を残す。その才能は「東の啄木、西の歌深」と称され、短歌の世界では高く評価されたが病に倒れ、31才の若さでこの世を去った。



▲前田純孝が生まれ育った浜坂町諸寄の海岸

諸寄の海にのぞみ建てられている純孝の歌碑▶



へ短歌作品を公募したところ、全都道府県はもとより外国からの応募がありました。

現在、「第5回前田純孝賞」の公募中。1回から4回までに届いた短歌の数は、1万首

も亘って誌面を占めたりしました。有望視されながら、病に倒れ無念の中、若くして亡くなりました。

浜坂町では郷土の先人前田純孝を顕彰するとともに、「文学の町浜坂」を目指すため、ポスト祭典事業として「前田純孝賞」を平成7年に制定

しました。もつと前田純孝を知ってほしいという気持ちを込めて、全国

●第1回前田純孝賞受賞作品
峠越すまた峠越す その度に
峰より高し 但馬の海は
井上真一さん

●第2回前田純孝賞受賞作品
どの道もまっすぐ行けば 浜に出る
不思議な村に 君は生まれぬ
宮本由紀子さん

●第3回前田純孝賞受賞作品
道さだめ 君は行きしか われは
まだ 百万本の コスモスの中
平木由美さん
●第4回前田純孝賞受賞作品
竹やぶの脇に残りし 桑の木の
そうだあの頃 蚕を飼ってた
村尾竹美さん



前田純孝賞に選ばれた短歌は、歌碑に刻まれ、浜坂町の「海に見える浜坂文学散歩道」に建立されます。すでに受賞された4つの歌碑は、それぞれの歌のイメージにぴったりのロケーションの場所に建立されました。歌碑をたずねて、ぶらりと散歩を楽しんでみるのもいいですね。

また「前田純孝賞」のもうひとつの魅力は、選者の佐佐木幸綱氏と有本俱子氏でしょう。佐佐木幸綱氏の祖父佐佐木信綱氏と前田純孝とは親交がありました。このような縁から、先生に選者になっていただいたとか。

毎回、応募された短歌を全部載せた作品集が出されます。入賞した歌には選者である両先生の講評も掲載されていて、人気があるそうです。

さて、今年はどんな歌が集まるのでしょうか。あなたはひとつ、心のままを素直に短歌に歌ってみませんか。

●詳しいことは17ページの但馬ニュースを「寛」の上へ応募ください。

文化勲章を受賞した画家 故郷の子供たちへ恩返し

出石町出身の現代洋画壇の重鎮、伊藤清永画伯の少年期から現在の作品に至るまでの数多くの絵画を集めた、出石町立伊藤美術館が開館したのは平成元年のこと。本格的な美術館として人々に愛されてきました。

平成8年、伊藤清永画伯が文化勲章を受章された時、出石町で祝賀会が行われ、「ふるさとの子供たちに夢を与えたい」という画伯の思いを形にするため、「伊藤清永賞子ども絵画展」の開催が決まりました。

但馬の幼稚園、小学生、中学生が対象で、水彩・クレヨン・パステルなど



伊藤清永 いうきよなが (画家) 明治44年、出石町下谷に生まれる。内閣総理大臣賞受賞、日本芸術院恩賜賞など数々の賞を受賞。発光する襟袖と称えられる、日本洋画壇の重鎮。白日会会長、日展顧問など。平成8年、文化勲章受賞。現在も意欲的に作品の制作に取り組む。

用具は何でもよく、切り絵・ちぎり絵・張り絵でもOK。自由な発想で子供らしいのびのびとした作品を募集しています。

今年で3回を迎えた「伊藤清永賞子ども絵画展」は、1200点の作品が集まり、伊藤清永賞10点などが決まりました。「ものをよく観る習慣が身につくと、そこから創造力や豊かな表現力が培われる。作品主義にとらわれない作品を選びたい」という画伯の思いを込めて、1点1点丁寧に選考されます。



伊藤画伯デザインのメダル
少女の横顔とバックには有子山など、ふる里の風景が描かれている。

毎年、表彰式には伊藤清永画伯が東京より出石へ戻ってこられ、自らデザインされたメダルを、自分の手で子供たちにかけられます。今年9月26日に表彰式が行われ、入賞作品のスライドを見ながら画伯の講評を聞きました。

また、入賞・入選作品100点が9月26日〜10月12日の間、伊藤美術館に展示され、たくさんの人たちが見学にやってきました。自分や友達の作品がきちんと額装され、美術館で展示されるのは、子供たちにとってもとてもよい経験です。もともと美術館を身近に感じてもらい、気軽に立ち寄ってもらえたらという伊藤美術館の思いも込められています。

現在は、但馬の子供たちが対象ですが、将来的には全国の子供たちに夢を与えられるような絵画展になればと期待がふくらみます。伊藤画伯のふるさとへ何か恩返しをしたいという思いが、いっぱい詰まった「伊藤清永賞子ども絵画展」。集まってくる子供たちの絵を見ると、いろいろな可能性を秘めた子供たちが、この但馬で育っていることを実感します。

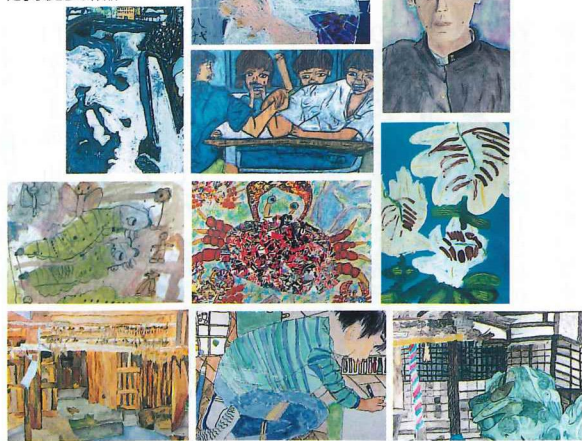


表彰式には受賞した子供たちを全員招き、伊藤画伯よりメダルと表彰状が手渡される。



伊藤美術館で展示されている子供たちの作品。たくさんの人たちが見学にやってくる。

「第1回伊藤清永賞子ども絵画展」で伊藤清永賞を受賞した子供たちの作品



賞



と

な

す

●前田純孝賞

問い合わせ
浜坂町教育委員会・社会教育課「前田純孝賞」係 TEL0796(82)3111
〒669-6792 兵庫県美方郡浜坂町浜坂2673-1

●伊藤清永賞子ども絵画展

問い合わせ
出石町立伊藤美術館内 伊藤清永賞子ども絵画展事務局 TEL0796(52)5456
〒668-0214 兵庫県出石郡出石町内町98